

■川瀬巴水 版画家。衰退した日本の浮世絵版画を復興すべく、新版画を生み出して確立、代風景版画の第一人者に。

かわせはすい

岩倉具視没・1883＝ 東京市芝区露月町で、父庄兵衛、母かんの子に生まれる。本名文治郎。母方の伯父に仮名垣魯文。

身体が弱く、

帝国大学始・1886＝ 3歳：この頃、大病を病み、伯母垣本なつが面倒を見てくれ、

初の対等条約1888＝ 5歳：この頃から毎年、栃木県塩原で土産物屋をしていた伯母なつの家に行き、暮らす。

帝国憲法発布1889＝ 6歳：

帝国議会始・1890＝ 7歳：

桜川小学校に入学。

幼時から絵を見るのが好きで、絵草紙屋へ行っては、役者絵や武者絵をよく見ており、図画は野村文筆の手本で、毛筆の日本画を習い、鉛筆画も学び、{やまと新聞}の大蘇芳年の挿絵などをまねることもあった。

大本教・・・1892＝ 9歳：

日清戦争始・1894＝11歳：

日清戦争終・1895＝12歳：

高等科2年の頃、トラホームを病んで、小学校を退学。

八幡製鉄始・1897＝14歳：画家を志し、自宅近くの川端玉章門下青柳墨川の塾に通うが親戚から反対され、1年程でやめてしまう。

田中正造直訴1901＝18歳：

教科書疑獄・1902＝19歳：

荒木十畝の親戚荒木寛友に師事。1年程、運筆を学ぶ。夜はランプの下で浮世絵を写して勉強。

日露戦争始・1904＝21歳：

向学心に燃え、大倉商業学校の夜学に通い、商業簿記や英語、漢文等を学ぶ。

日露戦争終・1905＝22歳：

日露戦争後、事業に手を出して失敗した父が多額の負債を抱え、

家業を継ぐことになるも、

アヲキ創刊・1908＝25歳：

画家への夢断ちがたく、妹夫婦に譲って。鏑木清方に入門を希望するが、歳を取り過ぎていと洋画を勧められ、白馬会岡田三郎助の指導を受けるもなじめず、再度、清方入門を懇願して許され、

伊藤博文暗殺1909＝26歳：

初めての遠方への大旅行として奥羽へ出かけ、塩原にも4ヶ月ほど滞在。

韓国併合・・・1910＝27歳：

“巴水”を号を与えられる。

明治天皇没・1912＝29歳：

清方一門と若手画家で結成した{巽画会}に、初めて日本画を出品。

大正政変・・・1913＝30歳：

この頃から4、5年、銀座{白牡丹}や本郷{東京学芸通信社}で絵の仕事をし、画家として初めて収入。

21ヶ条要求・1915＝32歳：

鏑木清方門下生が{郷土会}を結成、その第一回展に出品。

民本主義・・・1916＝33歳：

この頃、京橋の画廊{画博堂}を通じて頒布会を開き、風景画の他、美人画・風俗画など、20図程を描く。

ロシア革命・1917＝34歳：

芝の吉川文七の末女ムメ(梅代)と結婚。

本格政党内閣1918＝35歳：

{郷土会展}で伊東深水の渡邊版木版画集「近江八景」を見て感激、風景画の版画こそ我が道と、版元渡邊庄三郎を訪ね、処女作「塩原おかね路」「塩原畑下里」「塩原志ほがま」の3図を出版すると、

ベルサイユ条約・1919＝36歳：

*意外にも好評で、以後、版元渡邊庄三郎から風景画を任せられ、深木は美人画に専念するようになる。

大暴落・・・1920＝37歳：

{郷土会展}に版画十数図を出品。房州、金沢、若狭に写生旅行し、その成果「旅みやげ」第一集が完成。三菱社社の贈呈用企画で清方から推薦され、版元渡邊の下、岩崎清澄別邸と庭園を描いた8図からなる木版画集「三菱深川別邸の図」を制作。「三十間堀の暮雪」は清方から雪景色版画の最高傑作と絶賛される。

原敬首相暗殺1921＝38歳：

渡邊庄三郎(新作版画展覧会)に39図出品。北陸を回る。「東京十二題」「東京十二ヶ月」「旅みやげ」第二集。

水平社結成・1922＝39歳：

{郷土会展}{第二回新作版画展覧会}に出品。「日本風景選集」の予約出版始まる。

関東大震災・1923＝40歳：

{郷土会展}に出品。大震災で画業の成果一切を消失。渡邊の勧めで、翌年にかけて生涯最長の旅行。

護憲三派圧勝1924＝41歳：

その写生を基にした「旅みやげ」第三集を中断し、日本各地の風景版画を制作する方針に変更。

治安維持法・1925＝42歳：

*雑誌{日本及び日本人}一月号の「東京復興百景」の内、20図を描く。{版元伊世辰}が、深木の美人画と巴水の風景画を一組にした{双作版画会}を企画、3年かけて、5回(10図)が出版される。代表作「芝増上寺」。

巴本時代始・1926＝43歳：

大森新井宿子母沢に転居。秋田、北陸に旅行。「渡邊版「日本風景選集」完成。

金融恐慌・・・1927＝44歳：

翌年にかけて、{版元美術社}の依頼で「新日本八景」を制作。

共産党事件・1928＝45歳：

中国、四国、九州に旅行。

世界恐慌・・・1929＝46歳：

翌年につけて、版元酒井好古堂と貿易商川口次郎合版の版画制作を請ける。「渡邊版「旅みやげ」第三集終了。

海軍軍縮条約1930＝47歳：

東京府荏原郡馬込町に洋館を建てる。翌年につけて、版元東京尚美堂で版画を制作。「トレド美術館主催の「現代日本版画展」に92図出品。{郷土会展}として初めての個人展が開催される。渡邊版「東京二十景」完成。

満州事変・・・1931＝48歳：

渡邊版「子供十二題」2図制作。翌年につけて、版元芳壽堂、版元土井貞一の下で版画を制作。

五一五事件・1932＝49歳：

{第三回現代創作木版画展覧会}に97図、{近代浮世絵版画展覧会}に74図出品。東北、北海道を回る。「鉄道省の海外向け宣伝用ポスターのため、版元渡邊の下で「The Miyajima Shrine in Snow」を1万枚制作。

国際連盟脱退1933＝50歳：

「{日本美術協会第93回展}に「富士川の夕」を出品し、銅賞牌を贈られる。

帝人疑獄事件1934＝51歳：

この頃、榛原で「巴水団扇絵十二景」を制作し、団扇が販売される。翌年、版権が版元加藤潤二に移る。

芥川直木賞始1935＝52歳：

版元加藤潤二の下で「巴水人形書集」が出版される。「アメリカでの紹介と販売に尽力してくれたサンフランシスコの塩田竹蔵の還暦祝いに、「両班」「華盛頓記念塔(ポトマック河畔)」を制作し、感謝を込めて贈る。

二二六事件・1936＝53歳：

加藤潤二版「巴水団扇絵十二景」が出版される。「渡邊版「日本風景集東日本篇」完成。

日中戦争始・1937＝54歳：

銅版画「妙見の桶」を制作。

第二次大戦始1939＝56歳：

朝鮮の鉄道局の招きで、朝鮮を旅行し、大阪の版元関西美術社から「朝鮮八景」が出版されるが、

大政翼賛会・1940＝57歳：

疎開の御礼に、塩原小学校の校章図案を作成し、寄贈。「渡邊版「鶯鶯」「真鴨」「松本幸四郎関兵衛」制作。

日米開戦・・・1941＝58歳：

{大同コンクリート工業}のカレンダー12図を、銅版印刷で制作。

・・・1942＝59歳：

銀座、名古屋松坂屋で「川瀬巴水展」開催。

創価学会検挙1943＝60歳：

戦時統制に伴って結成された「版画奉公会」に入会、版画制作は困難となる。

年金+総武装1944＝61歳：

空襲が激しくなり、塩原和泉屋旅館の田代源一郎に勧められ、栃木県塩原へ疎開。

敗戦・・・1945＝62歳：

新憲法公布・1946＝63歳：

極東裁判決・1948＝65歳：

東京に戻り、東京都大田区池上の渡邊庄三郎の家作に入る。

三大事件・・・1949＝66歳：

日本木版画出版協会主催{全日本版画展覧会}の別会場で「川瀬巴水肉筆展」開催、24図出品。

朝鮮戦争始・1950＝67歳：

疎開の御礼に、塩原小学校の校章図案を作成し、寄贈。「渡邊版「鶯鶯」「真鴨」「松本幸四郎関兵衛」制作。

独立回復・・・1951＝68歳：

渡邊版「中村歌右衛門雪姫」制作。

メデー事件・1952＝69歳：

*文部省文化財保護委員会無形文化課で木版画技術記録を作って、永久保存することになり、

TV放送始・・・1953＝70歳：

以降3年、版木が焼失した酒井川口合版図を、自らの線と色で中嶋尚美社が再版。銀座、名古屋松坂屋で「伊東深水・川瀬巴水二人展」。伊東深水「髪」とともに「無形文化財技術保存記録木版画「増上寺之雪」を制作。

自衛隊発足・1954＝71歳：

日本木版画協会主催{第一回新版画展}に出品。

55年体制始・1955＝72歳：

朝日新聞社主催「現代版画五人名作展」に19図出品。「第二回新版画展」に出品。

国連加盟・・・1956＝73歳：

{第三回新版画展}に「岡山城之朝」「法隆寺西里」出品。

なべ底不況・1957＝74歳：

東京慈恵会医科大学附属病院に入院、大田区池上の渡邊庄三郎の家で、*胃痛ため、没した。絶筆となった「平泉金色堂」の初摺は、巴水の冥福を祈って百ヶ日の法要に際して友人知己の間に配られた。

東京美術「川瀬巴水作品集」,